



松井 雅宏
改革フォーラム (5)

★SDGs(持続可能な開発目標)

国や道も意欲的な国際目標への取り組みの必要性を質問。市の総合計画を始めとする各種計画にSDGsの2030年までの17のゴールを関連付けるとともに、市民向けのセミナーの開催、市独自の推進ビジョンの策定を提案し、前向きに取り組むむねの答弁がありました。

★【下請け工事の地元受注率】市発注工事における下請け工事の地元受注率の現況の資料を配布し、一次下請け80%台後半、2次下請け30%台、3次下請け10%前後、4次下請け1桁台となっている現況に対する市の見解をただし、真に地元経済を支えさせるため、現況分析をおこない、下請けの地元受注率を上げるため新たな方策を講ずるべきと求め、「しっかりと原因を分析した上で対応を検討したい」との答弁を引き出しました。



松尾 省勝
民主クラブ (3)

★市民の皆さまより多くの負託をたまわり、3期目のスタートを切ることが出来たことに心からの感謝を申し上げます。

なお、会派の代表として、考えを共にする仲間と共にまちの未来を見据えながら、精進を重ねてまいります。

★さて、人口減少時代を迎えた苦小牧市において、難局を乗り越えていくための課題は山積しており、議会に求められるニーズは多岐に渡ることから、幅広い議論を進めながら、未来へむけての準備を加速させなくてはなりません。

★私は、市民生活の基盤となる公共交通の活性化や高齢化が進むまちの介護環境の充実に向けて、これまでにも議論を深めてきました。が発展途上の域であり、今後も大きなくくりの中で、もっと前進できるまちの未来に向け、問題を提起してまいります。



矢嶋 翼
新 緑 (7)

★市内高校への理数科・英語科の設置を提案しました。理数科は、日胆地区に室蘭栄高校のみで、この10年間で医学部現役合格者は33名。苦小牧東高も医進指定校として、理科・数学・英語に特化した少人数授業をおこなっています。

現役合格者は1名でその差は歴然です。苦小牧にも理数科を設けるよう求め、英語も令和2年度から小学5・6年生で正規の教科となることから、その連続性が必要で高校の英語科設置を求めました。これに対し、魅力ある高校の観点からも道教委へ地域の声を届け、意見交換すると答弁がありました。

★英語の発音指導のため、外国人指導助手が小学校24校に対して6名しか配置されておらず、増員を求めました。これに対し英語の充実は急務であり、指導助手の役割は重要で、増員に向けて考えると答弁がありました。



山谷 芳則
新 緑 (1)

★私は「子育て世代のリーダー的存在」となり、子どもや子育て家庭の方々が安全安心な暮らしができるよう、若さとフットワークの軽さを武器に仕事をしてまいります。

★大学卒業後、学習塾講師として教育産業に関わり、子どもたちの学力格差を目的にしたりしてきました。地域を担う子どもたちに適正な教育をおこなうことは、私たち市民全体の課題です。学力の向上により、子どもたちは進学や就職において幅広く選択肢を有することができはるはずで。

★今定例会では①学力調査の結果と成果・課題について②小中学校の連携について③小中学校のホームページについて④ゾーン30※の取り組みについて質問させていただきました。今後も、市民の皆さまのために頑張ります。よろしくお願いたします。

※地域住民・児童など歩行者の安全性向上のため、生活道路に区域を定め、区域内を時速30キロの速度規制を実施して速度抑制を図る生活道路の安全対策です。